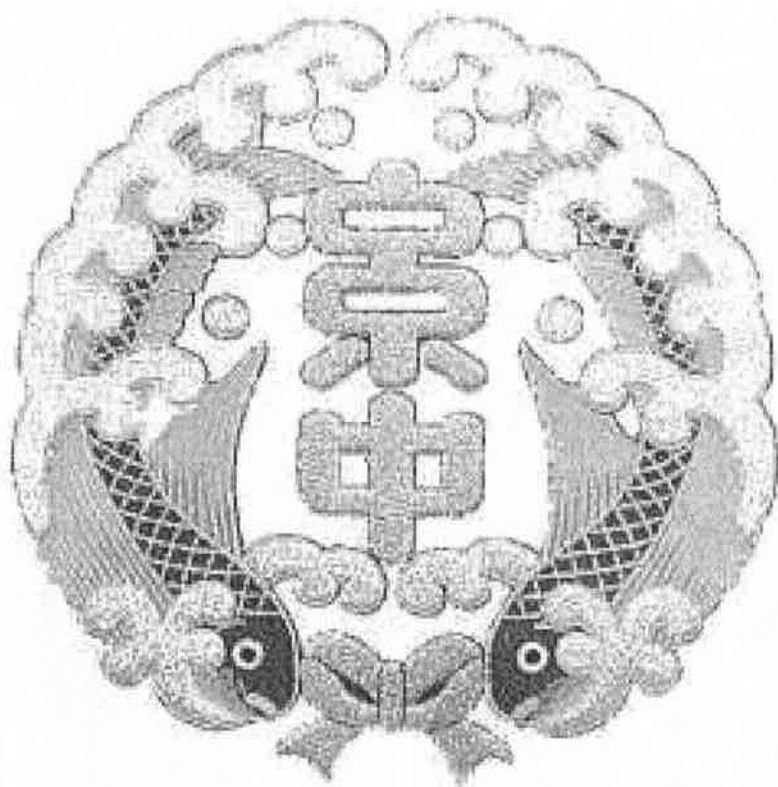


先生方からのアドバイス

スタディー・ナビ

(勉強法のとびき)



糸満市立糸満中学校

氏名

目次

■ はじめに	1
■ なぜ学ぶのか	2
■ 授業の心構え	2
■ 家庭学習が必要なわけ	2
■ 私がすすめる勉強法	3
◇各教科の勉強法◇	
国語の勉強法	4
社会の勉強法	5
数学の勉強法	6
理科の勉強法	7
英語の勉強法	8
音楽の勉強法	9
美術の勉強法	10
保健体育の勉強法	11
技術・家庭の勉強法	12

はじめに

勉強が大切だとわかっているけど、「どのように勉強していいのかわからない。」という生徒の声や、毎日提出する家庭学習の中を見ても、「勉強の仕方」がよくわかっていない生徒が多いことに気がきます。

1学年では、そういう生徒の手助けになればという思いを込めて、この『スタディー・ナビ(勉強のてびき)』を作成しました。冊子の内容は、普段の生徒の授業の様子や家庭学習の実態をとらえて、

- 1 授業の受け方
- 2 家庭学習の仕方
- 3 テスト勉強の仕方
- 4 受験勉強の仕方(入試5教科)

について、「系満中の生徒にあった勉強法」を、先生方が話し合っまとめたものです。

この中に書かれている勉強法は、先生方の個人的な経験からのアドバイスであり、多くの生徒にとってはかなり有効であると思われます。しかし、勉強法というのは人それぞれの方法があるので、この『スタディー・ナビ』を参考にして、自分にあった勉強法を見つけてください。

「勉強法が変わると学力は向上する」というのは自明であり、私たち教師は、冊子を手にした生徒の皆さんの学習習慣が確立し、学力が向上することを期待しています。

参考資料

- (1) 市川伸一『勉強法が変わる本～心理学からのアドバイス』
 - (2) 和田秀樹『受験勉強入門(勉強法マニュアル)』
 - (3) 平成暮らしの研究会『勉強法～そんなやり方じゃダメダメ!』
 - (4) さぬき市立志度中学校『学びのてびき』
 - (5) 船橋市立前原中学校『学習のてびき』
 - (6) 郡山市立守山中学校『守中スクールガイドⅠ. 学習のてびき』
 - (7) 浦添市立仲西中学校『スタディ・ナビ～勉強法のてびき～』
-

なぜ学ぶのか

人間ほど、生まれた後の行動が多様な動物はいません。自分の意志で、人生の方向を決められる動物もいません。人間以外の動物は、生まれ落ちたその時から自分の足で立ち、1年ほどで自立します。そして、本能に従い一生を同じ日々の繰り返しで終えます。しかし、人間は社会的に自立した一人前の人間になるのに20年はかかります。その20年の間には、日々自立するための学習の連続であり、学習が人生を左右します。



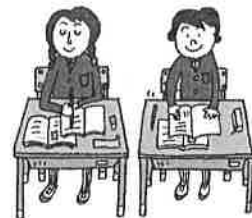
特に、中学校3年間は、心身ともに発達の著しい時期であり、もちろん大脳の発育も同じく著しく、人間にとって一生で最も重要な時期だといえます。だからこそ、中学校3年間は、目標を持って充実した生活を送ることで、自立への方向性を見出すことが重要なのです。「3年間何をしたか」によって、あなたの未来が見えるといっても過言ではないと思います。さあ、勉強のことで悩んでいるあなた！勉強のてびき「スタディー・ナビ」を活用し、知的好奇心を高め、大脳を刺激し、「明日は、今日と違う自分」をめざして精進しよう！！

授業の心構え

学習の基本はなんと言っても、学校の毎日の「授業」です。毎日の授業を大切に生徒は、必ず向上します。

では、次の①～⑦について、自分が実行できていることは、()の中に○印をつけてみましょう。

- | | | |
|----------------------|-------|-----|
| ① 学習用具の忘れ物はしない | | () |
| ② 宿題は必ずやってくる | | () |
| ③ チャイム2分前着席を守っている | | () |
| ④ 先生の説明は集中して聴いている | | () |
| ⑤ ノートは工夫してきちんとまとめている | | () |
| ⑥ 積極的に発表や質問をする | | () |
| ⑦ 授業中の私語、居眠りはしない | | () |



家庭学習が必要なわけ

エビングハウスという学者によると、普通の人、授業中に学んだことの80%程度を24時間たつと忘れてしまうそうです。しかし、夕食後に30分でも復習すると、50%程度とは記憶が戻り定着するそうです。家庭学習がいかに大切かが分かるデータですね。

家庭学習が必要なわけは、それだけではありません。その意義として次のことが挙げられます。



(1)学力が向上する

- ① 家庭で繰り返し学習することで、学習内容が定着する。
- ② 苦手なところや理解できてないところが把握でき、補充学習のきっかけとなる。
- ③ 授業の予習・復習を行うことで、授業に積極的に参加できるようになる。
- ④ 家庭学習を行うと、授業でのお互いの「練り合い」や「共有化」につながり、この学びが集団の学びに生かされる。

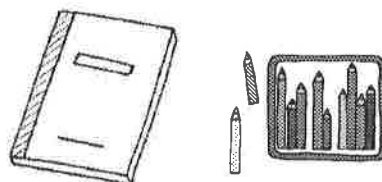
(2)主体的に学ぶ姿勢が培われる

- ① 先生など他人の支援を得ず自分と向き合いひとりで学習するために、主体性が身に付く。
- ② 学んだことや考えをまとめる「学びの確認」から、自分で学習を一步進めようとする意欲につながっていく。
- ③ 自分の興味のあるものを主体的に学んだりするようになり、学習の幅も広がり学ぶ楽しさがうまれる。

(3)生涯学習の基礎を作る

- ① 自学自習が習慣化すれば、大人になっても、時・場所・境遇を選ばず学ぶ基礎が培われる。
- ② 疑問・課題を自力で解決するための、効果的な方法を工夫するようになる。

家庭学習の意義や効果はその他にもたくさんあると思いますが、豊かで充実した人生をおくるために、今夜からさっそく30分でも家庭学習を始めましょう。



私がすすめる勉強法

皆さんのいちばん身近な糸満中の先生方に、中学や高校の頃の勉強法を書いてもらいましたので紹介します。

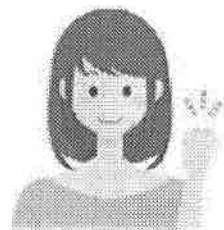
(1)毎日勉強するクセをつける！

私は小学校のころから、その日習ったことを少しずつでもいいから毎日復習するようにしていました。その復習は中学、高校と続いて学校から帰ったら、机に向かって勉強するクセがついていました。皆さんの中には、テスト前になって必死に勉強する人もいますが、日頃からほんの少しずつでもいいから、その日の学習内容を復習していく勉強のクセをつけることができれば、テスト前でもそんなに焦ることもなくなると思います。「少しずつでも毎日勉強するクセをつけていってはどうでしょうか？」これがわたしのおすすめの勉強法です。



(2)コツコツ勉強していると、できるようになる！

高校時代の教師が、「君たちなあ、毎日コツコツ勉強していると、いつの間にかできるようになるから、先生にだまされたと思って勉強してみろ！」と、よくおっしゃっていた。「へー、そんなもんか？」と思いつつも、先生の言う通りに、地道にコツコツ勉強していた。そして、本当に、ある模試を境に点数が取れるようになったという経験がある。私の勉強法は特別なものではなく、学校の時間割に合わせて復習を中心に、決まった時間に決まった場所で、コツコツ勉強していると、できるようになるということかな？



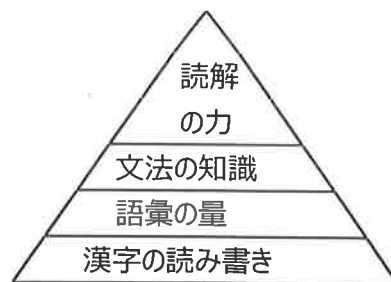
(3)まず授業を聴きノートをとる。家で考えながらもう一度書く。そんなことから・・・

家で勉強する前に、まず普段の授業をしっかり聞き、ノートをきちんととる。授業の時少し理解できなくても、家に帰ってその日のうちで授業を思い出し、じっくりと考えてみると、す〜と理解できるものです。その日の授業で書いたノートを別のノートにもう一度書く。ただ書く(写す)のではなく、考えながらゆっくり書く。まずは、そういうことから始めてみてもいいのではないのでしょうか。

国語の勉強法

国語力は右の図のような力で成り立ちます。国語力をピラミッドにたとえたとき、一番下の土台の部分は漢字の読み書きです。その次が、語彙(ごい)の量(知っている言葉の数)です。その上が文法の知識で、最後が読解の力になります。

このピラミッドのどこに自分のつまずきがあるか、つかむことがまず大切です。



授業の受け方

- (1)国語は、授業で考えるときに力が育ちます。まず、授業に集中して、自分で考えたり、書いたりしましょう。
- (2)文章の種類によって、読み取りポイントがあります。詳しいことは授業で説明しますので、しっかりつかんでください。
- (3)ノートは、縦書きで、「文字を正しく速く整えて書く」ことが要求されます。板書をそのまま写すのではなく、ポイントを中心に自分なりの印や書き込みなどを工夫しましょう。

家庭学習の仕方

- (1)予習
 - ①新出漢字の練習をしましょう。
 - ②教科書の欄外の語句の意味調べ、類義語、対義語、短文づくりをしましょう。
- (2)復習
 - ①国語の学習ワークをやったり、ノートを再度まとめ直ししたりして、学習のまとめや確認をしましょう。
 - ②間違いは赤ペンで直し、なぜ間違えたかをもう一度考えることが大切です。

テスト勉強の仕方

- (1)中間・期末テストは、授業で習ったことが中心です。授業をしっかり聞き、考え、まとめておきましょう。
- (2)新出漢字や語句の意味は必ず覚えておきましょう。自分でテストを作り、確かめをすることが重要です。
- (3)国語の学習ワークや朝ドリルプリントを何度もやること、ノートの見直しやまとめもやりましょう。



受験勉強の仕方

- (1)国語の場合は、これをやればすぐに力がつくというものではなく、地道な毎日の積み重ねがものをいいます。高校に入った後も、授業についていくためには、単なる受験対策ではいけませんとにかく、読むことに慣れること、わからない漢字や語句の意味は、面倒がらずに辞書で調べる習慣をつけておくことが大切です。
- (2)実践力を付けるためには、問題集や漢字ドリルなどを一冊以上しあげることです。特に、記述問題は、答えを写すのではなく、まず自分の力でやってみましょう。

コラム学習のススメ

新聞のコラムや新聞を切り取り、ノートにはります。語句調べ、漢字練習、要点のまとめ感想、題名をつけましょう。毎日でも週1回でもいいので続けることが大切です。

社会の勉強法

授業の受け方

- (1) 学習用具をそろえて授業に臨みましょう。(教科書・ノート・単語帳・地図帳・ファイルなど)
- (2) 先生の説明は集中して聞きましょう。(話し手に体を向ける。話は目で聞く)
- (3) 教科書や資料をよく読み、そして考え、何を意味しているかをつかむ。重要な用語や要点は、授業中に出来るだけ理解するよう努力をしましょう。(メモをとる)
- (4) 発表する時は、みんなに聞こえるように話しましょう。
- (5) 作業する(問題などに取り組む)ときは、私語をせず集中して行いましょう。
- (6) 他の人が見たくなるノートを作りましょう。



家庭学習の仕方

- (1) 予習
 - ①教科書の次の授業で学習するところを読み、「どんなことを学習するか」を知っておくと授業がよくわかります。
 - ②問題点や質問したいことをノートや付箋紙に書いたり、新しい用語などもわかる範囲で調べておくのもいいですよ。
- (2) 復習
 - ①必ず教科書を読み、蛍光ペンなどでなぞりましょう。(読むだけでも効果あり!)
 - ②キーワード(重要な語句)などをノートに写し、意味を調べたり覚えたりしましょう。
- (3) 毎週火曜日の宿題
 - ①毎週の宿題は、必ず全部記入し、提出しましょう。

テスト勉強の仕方

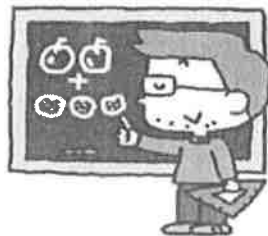
- (1) 地理
 - ①教科書を読みながら「どこに、何が、どの位あるか、なぜそうなっているか」を考え、地図にも印を付けてたしかめましょう。
 - ②ノートに書かれた重要な地理用語を漢字で書けるようにしよう。
 - ③統計やグラフなどから、その地域の特色を理解しましょう。
- (2) 歴史
 - ①教科書をよく読み、「いつ・どこで・誰が・何をして・どうなった」を理解しましょう。
 - ②歴史上の出来事については、「どんな原因で起こり、どんな結果になり、それがどんな影響を与えたか」という歴史の流れを考えながら学習しましょう。
 - ③ノートに書かれた重要な歴史用語や人名、年号を漢字で書けるようにしましょう。
- (3) 公民
 - ①教科書をよく読み、現代社会の政治や経済の仕組みを構造的に捉えましょう。
 - ②教科書の図表、グラフや統計、その他の資料も意味を理解しましょう。
 - ③政治・経済・社会に関する用語を漢字で書けるようにしましょう。



受験勉強の仕方

- (1) 地理は、統計資料を地図と結びつけて理解します。重要用語、国名や都市名、県名や県庁所在地などは書けるようにし、統計資料も、なぜそうなっているのかを考えながら学習しましょう。
- (2) 歴史は、教科書にそって歴史の流れを意識しながら勉強します。入試では、承久の乱後、朝廷と幕府の力関係はどのように変化したか?などと、前後の流れを理解する必要があります。流れを意識することで、歴史用語(人名や事件名)の理解も楽になります。
- (3) 公民は、教科書で基本的な用語を覚えながら、条文や制度の趣旨や意味を理解していきます。衆議院の優越が認められているのはなぜか、なぜ独占が悪いのか、「なぜ?」を意識することが大事です。
- (4) 入試の傾向を知るために、受験問題集や過去の入試問題集はやっておきましょう。

数学の勉強法



授業の受け方

- (1) 教科書、ノートなどの学習用具をきちんとそろえて授業に臨みましょう。
- (2) 先生の説明や友達の発表は、考え方や解き方の説明なので、書くのを止め聴く(理解する)ことに集中しましょう。
- (3) 板書は大切なことなので、必ずノートに書く。丸写しではなく、工夫してノートをとりましょう。
- (4) 練習問題は、出来るだけ自力で解くようにする。そのとき、計算過程を省かず1つずつ式の変化をきちんと書くことが「確かな理解」につながります。
- (5) 分からないところは、積極的に先生に質問して、理解できるように心がける。聞こうか、どうしようか迷わないで、勇気を出して質問してください。先生方は、そういう質問を心待ちにしています。
- (6) 自力で解けた場合でも、模範解答があれば比較し、よりよい解法を身につけるようにしよう。
- (7) 1つの考えで満足せず、他にも解法がないか考える習慣をつけましょう。

家庭学習の仕方

- (1) まず、教科書でその日に学習した範囲をザッと読み返してみよう。
- (2) その範囲の例題を、説明部分をかくして自分でやってみよう。
すらすらできた人 → 例題の下にある問題をやってみよう。
できなかった人 → 例題の説明をよく読み、分かったら、もう一度説明部分をかくして自力でやってみよう。
- (3) 問題を解いたら、必ず答え合わせをする。その場合、間違った問題や難しかった問題に印をつけておけば、自分の弱点に分かってテスト勉強の時に役立ちます。
- (4) どうしても自力で解けなければ、解答をよく読んでから、自分で解いているつもりで正解を丸写しする。その後、すぐに類似問題にチャレンジしてできるかどうか確認しましょう。
- (5) 復習には、ワーク(ニュートンJr)や他の問題集も活用しよう。とにかく数多くの問題を解くことが大切です。
- (6) 次時に習うと思われるページに軽く目を通すことで、授業が理解しやすくなります。



テスト勉強の仕方

- (1) 数学の最も効果的なテスト対策は、教科書やワーク(ニュートンJr)の試験範囲となっている問題を全部解いて、何も見なくても自力で解けるようにしておくことです。
- (2) 教科書やノート、プリントなどをただ目で追って「ああそうだった、こうして解いたんだ」という確認だけでは十分ではない。必ず、実際に問題を解くことが大切です。
- (3) 間違えた問題、分からなかった問題は授業のノートに整理し、試験前にそのノートを確認しましょう。
- (4) 試験範囲をすべて終了させるためには、できるだけ早めに「テスト征服作戦」などを立ててテスト勉強をスタートする。教科書の問題を最低2回は解けば、対策は万全です。

受験勉強の仕方

- (1) 出題内容は教科書範囲に限られ、全学年の全分野から出題されるので、日頃からの学習の積み重ねがとても大切です。
- (2) 基本的な問題が多いので、過去問や標準問題集を何度も反復練習することが効果的です。
- (3) 過去5年間の問題をこなせば、入試問題の傾向が分かり、一通りの対策はできます。「沖縄県最近5年間入試問題集」は、必携ですよ！
- (4) 過去問をやる時は、入試本番を意識して時間を計り、解答順や一問題にかかる時間配分を考えながら解く訓練をしましょう。

理科の勉強法

授業の受け方

- (1) 休み時間の間に学習用具を準備し、忘れ物がないか確認しよう。
- (2) 教科書など、先生や他の人が読んでいるときは目で追いながら聞き、大事なところはアンダーラインを引きましょう。
(先生の「ココは大事だよ！」とか「ココに注目！」などの言葉を聞き逃したらダメ！)
- (3) 板書は内容を確認しながら丁寧に書き、色ペンなどを使って、分かりやすくまとめると復習のときに助かります。
- (4) 観察・実験は意欲的に取り組みましょう。
(知識をより確かにし、理解を深めます。)
- (5) わからないところの質問などは、休み時間や放課後などを利用し、積極的に聞き、はやくかいけつしましょう。
- (6) 宿題が出されたら忘れないようにメモをとりましょう。



家庭学習の仕方

- (1) 教科書やプリントなど、その日習った内容の所を家庭学習などで、復習してみましょう。
(アンダーラインを引いたところや太い字で書かれているところは、特に注意して読む！)
- (2) 覚える必要がある語句と語句の説明を何回か書いてみよう。(復習ノートを作成し、やるとよい)
- (3) 覚えるだけでは不十分です。しくみや理由がわかっているかも確認しよう。
- (4) わからない問題はそのままにせず、教科書やノート、参考書などで調べながら、わかるまで学習しよう。
- (5) 次時の内容も読んでおくとさらにいいでしょう。(予習→授業→復習と3回やることになる)

テスト勉強の仕方

- (1) テスト前に、今までやったすべてのページやプリント(ドリル、フォローアップ、たしかめプリント)をやるのは難しいので、普段から、特に大事な所をチェックしておきましょう。先生の説明の中で「ココは大事です。」等の言葉をもこまめにチェックしておきましょう。
- (2) まず自分がどれくらい理解しているかを考えてみよう！
だいたいわかっていると思う人→ 問題を中心に解いていく。
あまりわかっていないと思う人→ まず、教科書を読むことから始めよう。
- (3) 観察・実験を中心とした問題が出題されます。教書にある重要な観察・実験については内容や考察をまとめるだけでなく、目的・準備(器具名など)・実験方法なども整理しておきましょう



受験勉強の仕方

- (1) まず、「ものはためし」です。過去問(過去の県立高校入試問題)を解いてみましょう。
入試問題は、1年の範囲、2年の範囲、3年の範囲とバランスよく出題されています。また、習っていない問題はしょうがないですが、すでに習っている範囲の問題ができていないと困りますね。自分のできなかった分野は教科書に戻ってしっかりと復習して下さい。
- (2) 入試問題にも「よく出される所」というのがあります。先生に確認するなどして、効率よく取り組むことも大切です。わからないところは、どんどん質問しましょう。どうしていいかわからないときは、遠慮なく相談に来てください。

英語の勉強法



授業の受け方

- (1) 休み時間の間に教科書、ノート、ワークファイルなどの学習用具をきちんとそろえて授業に臨みましょう。
- (2) 英語の授業は4つの活動があります。「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」それぞれやるべき時にやるべきことを行きましょう。
- (3) 1時間1時間の授業を大切にしましょう。私語は自分だけでなく周りの人にも迷惑をかけます。絶対にいけません！！
- (4) わからないところや質問があれば、遠慮なく先生に聞きましょう。

家庭学習の仕方

- (1) 定期的に長時間ではなく、少ない時間でもいいから毎日継続して学習しましょう。特に教科書の音読はおすすめです。
- (2) 授業で習った英単語や熟語をその日で覚えるようにしましょう。発音しながらノート(復習ノートを作成し、やるとよい)に書くと、記憶の効果は上がるといわれています。読めない単語は、チェックしておいて先生や友達に教えてもらいましょう。
- (3) テレビやラジオの英語番組を利用するのもいいですよ。NHKテレビ・ラジオの英語講座はお勧めです。新聞のテレビ・ラジオ欄を見るといろいろな番組があります。再放送もあるので見逃しても、もう一度見る・聞くチャンスがあるという利点もあります。
※本屋に行くと、CD付テキストが安価で手に入ります。
- (4) 英語の歌を聞いたり洋画を見るのもいいですね。
現代は科学時代、CDやMD、ビデオやDVDなど、自宅に居ながら英語のシャワーを浴びることはできます。しかも寝ながらBGM感覚でも英語は聞けます。特にDVDでは、英語の字幕でみると聞き取れなかった英語が視覚的にわかるようになっていきます。



テスト勉強の仕方

- (1) テスト範囲の教科書、ノート、ワーク、ファイルなど徹底して何度も復習しましょう。
- (2) テスト範囲の単語、熟語を完璧に覚えましょう。その際、例文を通して覚えると効果的です。
- (3) 文法、単語、熟語は紙に書きながら、そして発音しながら覚えましょう。
- (4) 日頃の授業を真面目に受けることや家庭学習の積み重ねが威力を発揮します。

受験勉強の仕方

- (1) 過去問を何度も解いてみましょう。問題の傾向やリスニングの難易度がわかり、時間配分がうまくできるようになります。
- (2) 受験用の単語・熟語集、文法集などを用意し、同じ参考書や問題集を最低3回は繰り返して勉強しましょう。あれこれ手をつけず、一冊を徹底的に使いこなすのがポイントです。



音楽の勉強法

○音楽の勉強法のポイントは、

- ①まず、音楽を好きになること。
- ②音楽のジャンルに関係なく、いろいろな音楽をどんどん聴くこと。
- ③理論は後。まずはやってみること。やってみてその後、理論や楽典に入る。
- ④コンサートに行こう。生の音楽情報はエネルギーを持っている。

ということが基本です。

その上で、音楽科からの勉強法のアドバイスをします。



授業の受け方

- (1)学習用具(教科書、アルトリコーダー、ノート、ファイルなど)の忘れ物を絶対にしないで下さい。
- (2)音楽室では、今日の学習の心構えをしっかりと、いつも落ち着いた気持ちで授業に臨みましょう。
- (3)歌うときは、積極的・意欲的に大きな声を出し、表現しようとする意識を持って楽しんでやることを大切にしましょう。
- (4)合唱や合奏においては、パートやグループの仲間とリズムや音程を合わせる楽しさを味わい、協力して活動に取り組みましょう。
- (5)音楽用語(pやf,ritやModerateなど)は、合唱やアルトリコーダーの演奏を通して、覚えましょう。
- (6)「鑑賞」の時は、心静かに、耳と目(教科書)を集中してよく聞き、感じたことを自分の言葉で表現しよう。



家庭学習の仕方

- (1)旋律や歌詞の確認など、次の授業に困らないように復習をしてみましょう。
- (2)音符と休符やいろいろな記号や用語を覚えてみよう。
- (3)合唱コンクールなどでは、担当する旋律を録音して、家でも聞いたりするとよいでしょう。
- (4)アルトリコーダーの指使いがすらすらできるように、家でも基本的な練習をしよう。
- (5)生活の中に音楽を取り入れ、身近なものにしよう。音楽情報や生演奏を聴く機会をつくり、積極的に鑑賞しよう。



テスト勉強の仕方

- (1)期末テストは、授業で習ったことが出題されます。試験範囲の教科書に書かれている文章を何度も読んでおきましょう。
- (2)音楽用語や記号は、読み方や意味をノートに整理して覚えましょう。表にすると分かりやすいです。
- (3)試験範囲の曲名や作詞・作曲者名も確実に覚えましょう。
- (4)歌のテストの場合や期末テストの時などに歌詞を覚えていない人がいますが、何も見なくても歌えるようにしておきましょう。
- (5)アルトリコーダーの指使いも、図を書くなどして正確に覚えておきましょう。

合唱練習のポイント

- ①新しい曲の範唱や演奏を聴いてるとき、楽譜を見て、曲の感じや旋律の動きを、できるだけつかむようにしましょう。
- ②パートに分かれての音取りが肝心なところです。この音取りの時に恥ずかしがらず大きな声で歌う人は、旋律の動きに慣れるのが早いようです。逆に、恥ずかしがって小さい声で音取りをする人は、旋律の動きに慣れるのが遅くなります。

美術の勉強法



授業の受け方

- (1) 用具を忘れない……………美術の学習は作品づくりが中心です。
必要な用具は必ず持ってきてきましょう。
- (2) 授業開始までに用具の準備をする……………作品づくりに時間をかけられるように、
準備は授業の前に済ませておきましょう。
- (3) 学習のポイントをよく聞き……………毎時間目標を持って学習しよう。
制作の要点をつかむ
- (4) 完成するまで粘り強く……………作品づくりには、とても時間がかかります。途中で
作品づくりに取り組む 投げ出さずに完成させるまで頑張りましょう。
- (5) 用具の片付けをきちんと行う……………美術の学習では用具はとても大切です。使った用具は
責任を持ってもとの場所に返しましょう。

家庭学習の仕方

- 普段の生活の中でも、美術で学習したことを生かすように心がけ、心豊かな生活をエンジョイしてください。
- (1) 普段の生活の中で、ものを作ったり、絵を描いたりすることに興味・関心を持つようにしましょう。
 - (2) 制作に取り組んでる人の表情や動作を見て、その苦労や喜びについて知るようにしましょう。
 - (3) 身近にあるものや景色の美しさに気づいて、その形や色をじっくり味わうようにしましょう。
 - (4) 自分が考えたものを、作ったり描いたりして楽しみましょう。



テスト勉強の仕方

- (1) 出題範囲の内容を理解しましょう。
- (2) 教科書やプリント資料の文章を何度も読んでおきましょう。
- (3) 学習の心構えを確認しましょう。
- (4) ビデオ鑑賞で学習した作品の題名や作者名、技法などについて、ワークシートを使って復習しましょう。
- (5) 普段授業の中で、担当した先生が説明した大切なポイント確認しましょう。

コンクールへのチャレンジの仕方

- コンクールへの作品の出品の方法があります。
- (1) 授業の中で仕上げる水彩画やポスター等
中文祭や各種コンクールに該当する場合に出品することもあります。作品は意欲的に仕上げてください。
 - (2) 自由出品(チャレンジしたい生徒が自由に出品するもの)
美術室の掲示板に、募集内容を張り出しているコンクールについては、誰でも自由に出品できます。
ただしそれぞれのコンクールには受付期間があるので、締め切りを守って出品して下さい。

体育の勉強法

授業の受け方

体育分野（実技）

- (1)授業は、必ず体育着(上・下)を着用して受ける。体育館での活動の場合には、室内用シューズも用意する。また、病気や怪我などで見学するときには、特別な場合を除き、体育着で見学するようにしよう。
- (2)休み時間に素早く着替えて、グラウンドでの活動の場合には運動場2周、体育館での活動の場合には館内5周のランニングを各自で行いましょう。
- (3)用具の準備などがあれば、授業が始まる前に完了させ、始業のベルと同時に授業が開始できるようにしよう。
- (4)集合時には決められた整列方法でまっすぐに並び、腰を下ろして先生の説明を聞くときには、体育座りで体を話し手に向けて静かに聞きましょう。
- (5)常に安全には気をつけ、真剣な態度で活動を行いましょう。
- (6)個人種目等では、「できない」、「できそう」な技能に積極的に挑戦し、練習の工夫や自身の努力で「できる」ようになる喜びを味わいましょう。
- (7)集団種目においては、グループの目標が達成できるようにメンバーで協力して取り組みましょう。
- (8)授業で使った用具は、体育委員を中心にみんなで片付けましょう。
- (9)授業後は「実技カード」に自己評価と学習のまとめ、次時のめあてを記入して提出しましょう。



保健分野

- (1)保健の授業は原則として教室で行う。
- (2)保健の授業期間には、保健の教科書と保健のノートを準備しましょう。
- (3)毎時間の「学習のねらい」を理解して授業を受けましょう。
- (4)日常生活を安全・健康に過ごすためには、どのようなことが必要なのかを、保健の学習内容とつなげて考えたりしてみよう。



家庭学習の仕方

- (1)新聞のスポーツ欄やテレビのスポーツ番組に興味を持って見たり聞いたりして、試合の解説やスポーツ選手の動向に関心を持つ。会場に行き、選手の迫力あるプレーや生の歓声を直接感じながら観戦すればさらに感動的です！
- (2)毎日ではなくてもいいので、授業で学習したことを忘れないように、時々教科書や学習ノートを読んでおきましょう。(目を通していただくだけでも学習効果があります。)
- (3)日頃から生活の中に運動を取り入れ、健康増進と体力向上を心がけましょう。
- (4)保健の授業で学習したことが、普段生活の中で活かさないかを常に考え、積極的に実践してみよう。

テスト勉強の仕方

- (1)まず、体育実技や保健の教科書で出題範囲のところをよく読み、内容を理解しましょう。
- (2)「体育実技ノート」や「保健学習ノート」も、見直しておきましょう。
学習のまとめや練習問題は、答え合わせまで行い、間違った問題や、分からなかった問題はできるだけ繰り返し学習しましょう。
- (3)授業で確認したルール、技のポイントや名称は確実に理解し、実技の教科書などで確認しておきましょう。



技術家庭の勉強法

○技術・家庭科は、よりよい生活をしていくために必要な基礎的な知識や技術を学び、進んで生活を工夫し創造する能力と態度を身に付けていく教科です。

技術分野では

実際に物づくりをしたり、コンピューターを操作してその技術を身に付けていく中で、いろいろと工夫したり、自分なりの新しい考えを出すよう心がけましょう。

家庭分野では

家庭の役割や周囲の人との関わり方、暮らしと環境の関わり方について考える中で、生活を工夫し実践する力をつけていきましょう。

授業の受け方

- (1)教科書、ノート、その他用意するものが指示されるので忘れ物をしないようにしましょう。
忘れ物をすると、その日の授業ができなくなります。
- (2)実習時は服装もきちんとして授業に臨みましょう。
- (3)ノートは確実に記入する。ノート提出の時は、期限に遅れず必ず提出しましょう。
- (4)ワークシート(プリント)などは大切なので、ファイルにつづって保管しましょう。
- (5)作品は実技点の中でも大きな割合を占める。先生の説明をよく聞き、工具や道具の扱い方や材料の特徴を考えて、ていねいに作業をしよう。できあがりだけでなく、制作途中の過程も評価されるので、期限内に仕上げるのが重要です。
- (6)学習内容は、普段の生活に関係したものが多く、今までの経験や日常生活を思い出しながらかん連づけて取り組みましょう。
- (7)多くの作業や自習があります。先生の指示をよく聞き、安全面に気を配り、事故の無いように注意して行いましょう。
- (8)作業や実習が終わったら、使用した工具や道具、調理器具などをもとの場所にきちんと片付けましょう。



家庭学習の仕方

- (1)長い休みには宿題を出すことがあります。しっかり取り組みましょう。
- (2)授業で学習したことを忘れないようにするために、授業のあった日は教科書やノートを読みましよう。(読むだけでも学習効果があります！)
- (3)授業で学習した内容は、普段の生活に関係が深いものが多いので、家庭のいろいろな事柄に関心を持ち、積極的に実践してみよう。

テスト勉強の仕方

- (1)実技点や平常点、ペーパーテストのどれも重視するので、試験範囲が発表されたら、教科書やノート、ワークシートをよく読んで内容を理解しよう。
いくら作品のできがよくても、テストの点数が悪ければ高い評価はつきません。
- (2)覚える内容は、紙に何度も書いてしっかり覚えるよう努力しよう。
(技術・家庭科は覚えることが多いので、テスト前日だけの勉強では難しいと思います。)
- (3)「なぜだろう」「どうしたらよいのだろう」などの疑問点やわからないことは、そのままにしないで、それを解決する努力をしよう。どうしてもわからなければ、先生に聞きに行くのが1番の近道です。
(質問を待っています。)

